



生産拠点の最適化を進めます

キューピー拳母工場 2023年を目途に、生産を終了

移管・集約による効率化とフレキシブルな対応力で“持続的成長”を加速

キューピー株式会社

キューピー株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役 社長執行役員：長南 収、以下キューピー）は、2023年を目途に、拳母工場（愛知県豊田市/1958年設立）におけるすべての生産活動を終了します。拳母工場で生産する調味料は、泉佐野工場（大阪府泉佐野市）・神戸工場（兵庫県神戸市）他へ移管し、タマゴ素材品については、グループの生産拠点に移管する予定です。

キューピーグループは、2021-2024年度の中期経営計画において、「持続的成長を実現する体質への転換」をテーマに掲げ、事業計画を進めています。その実現に向けた施策の一つとして、事業・カテゴリーの選択と集中、それに伴う国内の生産拠点の最適化を進めています。

1958年に設立した拳母工場は、現存するキューピーの工場としては最も古く、老朽化が進んでいます。経年劣化に伴い、維持コストの面でも課題がありました。そこで、拳母工場で製造する調味料のうち、生産効率求められる主力のマヨネーズ・ドレッシングについては神戸工場・五霞工場（茨城県猿島郡五霞町）へ、フレキシブルな対応力が求められる、多品種少量生産の商品については泉佐野工場・中河原工場（東京都府中市）へ移管します。また、液卵やゆで卵などのタマゴ素材品については、各エリアにおけるグループの生産拠点に移管し、生産効率を高めます。このような移管と集約によって、効率化とフレキシブルな対応力を一層強化し、“持続的成長”の実現をさらに加速させていきます。

すべての移管を2023年度中に完了し、拳母工場は生産拠点としての役目を終えますが、雇用についてはグループ拠点への異動を含め、その確保に努めます。工場跡地については、有効な活用方法を検討していきます。

キューピーは今後も、市場の変化やお客さまのニーズをいち早く捉え、効率化とフレキシブルな対応力をもって、お客さまの期待に応えていきます。